

「合理的配慮表」(2020) をご覧になる方、ご利用いただく方へ

本校は、山梨県教育委員会から「2019・2020年度(令和元・2年度)インクルーシブ教育システムの構築に向けた『合理的配慮』実践研究事業」(2か年研究)の指定を受けました。

「合理的配慮」の視点を取り入れた授業提案【一人1事例】を中心に据えた、2か年の研究活動を通して、本校の児童生徒のニーズに応じた「合理的配慮」のあり方を検討していきながら、「合理的配慮表」を作成することができました。

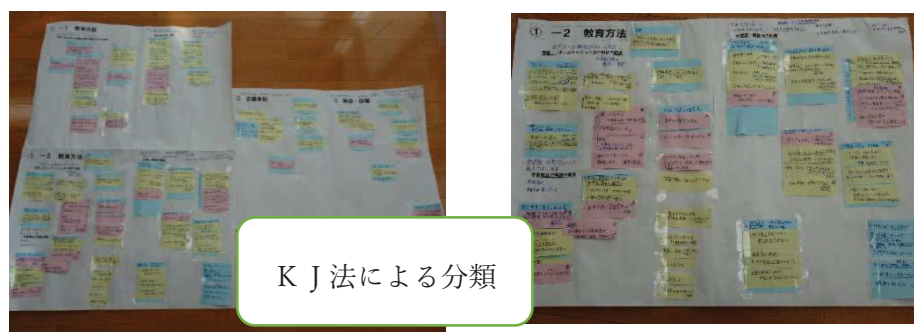
掲載した「合理的配慮表作成の経過」も併せてお読みいただき、2か年研究の成果のひとつでもある「合理的配慮表」をご利用いただければ幸いです。

令和3年3月

合理的配慮表（2020）

1 合理的配慮表作成の経過

(1) 本研究は、教師一人ひとりの授業事例を基軸としている。中教審初等中等教育分科会(2017)で示された「学校における合理的配慮(3観点11項目)」に基づき授業事例で必要な合理的配慮において協議し、KJ法を含め合理的配慮の文言や内容について再検討を行い、実践集「ふじみ」第36集に合理的配慮表I(2019)として整理した。



(2) 谷口先生(2019)より「児童生徒の『困り感』に寄り添った活用を見通して、よりよい合理的配慮が展開されることが望ましい」と助言をいただいた。そのため、総研病弱班(2018)が提案した「精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズ」6領域を活用し、合理的配慮表I(2019)の見直しを行った。児童生徒の困り感につなげて、合理的配慮表I(2019)に左記の6領域を含めて検証し、合理的配慮表II(71p～79p)を作成した。

2 合理的配慮表

(1) 合理的配慮項目の整理の観点

- ① 「授業提案」や「個人研究のまとめ」の中の文言を使用
- ② 文言の統一
- ③ 重複している項目、具体的ではない項目の削除
- ④ 「～のために」のような目的は省略し、「～する」という行動のみの表記形式に統一

(2) 活用方法

学校における「合理的配慮」とは「個別に必要とされるものである」(中教審初等中等教育分科会 2017)と定義されているが、本研究では、「授業提案」をベースにして2年間蓄積してきた「合理的配慮」を書き並べて、誰でも活用できるような“一般的”なものとして作成した。

この合理的配慮表IIを活用する人は、表の中からその子に必要な項目をピックアップして、アプローチの参考にしてほしい、具体的なアプローチを考える際のツールのひとつとして役立ててほしい、という願いを込めた。

目の前の子どもがかかえる「困り感」への支援のために、表の中から選んだ項目(複数)は、その子のみが必要な“オンリー・ワン”の「合理的配慮」になっていくと考えている。

合理的配慮表(2020)

3観点11項目	該当する内容
①-1 教育内容	○学習上又は生活上の困難を改善克服のための配慮 ○学習内容の変更・調整
①-2 教育方法	○情報・コミュニケーションおよび教材の配慮 ○学習機会や体験の確保 ○心理面・健康面の配慮
② 支援体制	○専門性のある指導体制の整備 ○幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮 ○災害時等の支援体制の整備
③ 施設・設備	○校内環境のバリアフリー化 ○発達、障害の状態および特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 ○災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

(出典) 合理的配慮3観点11項目：中教審初等中等教育分科会(2012,7)
学校における合理的配慮の3観点11項目

困り感	該当する内容
心理面	○不安・悩み ○感情のコントロール ○こだわり ○意欲・気力 ○自己理解 ○気持ちの表現 ○情緒の安定 ○気分の変動 ○自信
社会性に関する面	○集団生活 ○社会のルール理解 ○コミュニケーションスキル ○同年代との関係 ○家族との関係 ○教師との関係 ○異性との関係 ○他者への信頼 ○他者への相談 ○他者理解
学習面	○学習状況 ○処理能力 ○聞き取り・理解力 ○読み・書き ○記憶力 ○注意・集中 ○学習への意識 ○経験
身体面	○身体症状・体調 ○巧緻性 ○動作・体力 ○多動性 ○感覚過敏
学校生活	○見通し ○物の管理 ○登校・入室への抵抗感
自己管理	○睡眠・生活リズム ○食事 ○服薬 ○病気の理解 ○ストレスへの対処

(出典) 困り感に対する支援・配慮：特別支援教育総合研究所病弱班(2018)
精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズ6領域

注) 通し番号の1~87：令和元年度に考案、作成 通し番号の88~117：令和2年度に考案、作成

合理的配慮表 心理面への配慮

困り感に対する支援・配慮	通し番号	「授業提案」の中に記載された、具体的な「合理的配慮」	合理的配慮3観点11項目
心理面	88	自分が主体的にかかわることの心地よさを、より体感できるような活動内容を工夫していく。	①-1 教育内容
	1	児童生徒の全体的な実態から、学習における配慮事項を考える。	
	2	知識や技能面だけでなく、家庭の状況や生育歴等まで把握する。	
	3	児童生徒の経験値を把握する。(学習内容に掲載されている事例を経験したことがあるか? 理解できる内容であるか? 予測しながら考えられる内容であるか?)	
	4	標準化された心理検査の結果(児童生徒の特性)を把握し、活用する。	
	26	楽しみながらできることを取り入れる。(ICT機器の活用、音楽や動画の活用)	
	27	身体活動を取り入れる。	
	28	作業活動を取り入れる。	
	29	ゲーム的要素を取り入れる。	
	33	視覚や聴覚に働きかける情報を提供する。	
	34	言葉だけでなく、絵や図を挿入する。	
	38	学習プリントにコメント欄を設けて、励ましたり、褒めたりする。	
	41	家庭環境、前籍校や小学校時代の活動状況を踏まえた、安心感のもてる題材を選ぶ。	
	42	集団授業における個々の状態に応じた配慮をする。(抵抗感や苦手をやわらげる)	
	48	(児童生徒の実態によっては)教科書で授業をすすめる。	

合理的配慮表 社会性に関する面への配慮

困り感に対する支援・配慮	通し番号	「授業提案」の中に記載された、具体的な「合理的配慮」	合理的配慮 3観点11項目
社会性に関する面への配慮	25	複数の児童生徒の発信を受けて、意見交換しやすいように、適切な説明を加えたり、要約したりする。コーディネータ役を時にはにう。	①-1 教育内容
	1	児童生徒の全体的な実態から、学習における配慮事項を考える。	
	2	知識や技能面だけでなく、家庭の状況や生育歴等まで把握する。	
	4	標準化された心理検査の結果（児童生徒の特性）を把握し、活用する。	
	42	集団授業における個々の状態に応じた配慮をする。（抵抗感や苦手感をやわらげる）	
	44	集団内でのスピード差に対応するための補助教材を準備しておく。	
	53	否定されなかった経験を積み上げていき、安心して自由に発信できるようなクラスの雰囲気づくりをする。	
	94	集団授業において「欠席」した場合には、学習内容と重点を伝えるひとことメッセージ付きのプリントを手渡す。	
	75	実態（発達段階、心理特性、認知特性、理解度、学習進度など）やねらいに応じた学習形態で授業を行う。	② 支援体制
	76	教科担当と担任との情報共有を図る。	

合理的配慮表 学習面への配慮

困り感に対する支援・配慮	通し番号	「授業提案」の中に記載された、具体的な「合理的配慮」	合理的配慮 3観点11項目		
学	5	本単元を学習することに対する本児童生徒なりの意味を確認する。	①-1 教育内容		
	6	毎回同じ流れで進める。			
	7	実験や実習を通してから「座学」へのスタイルに変える。			
	8	「気づき」のある学習スタイルで行う。（授業展開、発問など）			
	9	スモールステップの指導を重ねる。			
	10	前籍校の学習内容を考慮する。			
	11	学習内容の系統性を考慮する。			
	12	小学校の学習内容を補充する。			
	13	前時の学習内容を確認してから本時の授業に入る。			
	14	基礎・基本の内容を抽出したり精選したりする。			
	15	身体に負担がかかっている動きを排除する。			
	16	単元により、扱う授業時数の幅を調整する。			
	17	本時の展開のなかで、一つ一つの活動時間の長さを適宜調整する。			
	18	本時の展開のなかで、単調にならないように、変化を持たせた活動を設定する。			
	19	教科書で触れていない内容を盛り込みながら、授業をすすめる。			
	20	授業の初めに「ニュース内容」を取り入れる。			
	21	本時の「学習時間」を相談しながら、自己決定させる。			
	22	学習内容を一緒に考えたり、話し合ったりしながら自己決定させる。			
	23	（準ずる教育課程なので）教科指導の専門性を研修等を通して磨く。			
	24	児童生徒の反応が想定外の展開もありえるので、教師の想像力、柔軟性を日ごろから鍛える。			
	25	複数の児童生徒の発信を受けて、意見交換しやすいうように、適切な説明を加えたり、要約したりする。コーディネータ役をを時にはにう。			
	89	下学年の内容を補充し、誤認識している箇所をさぐる。			
	習	1		児童生徒の全体的な実態から、学習における配慮事項を考える。	
		2		（知識や技能面だけではなく）家庭の状況や生育歴等まで把握する。	
3		児童生徒の経験値を把握する。（学習内容に掲載されている事例を経験したことがあるか？ 理解できる内容であるか？ 予測しながら考えられる内容であるか？）			
4		標準化された心理検査の結果(児童生徒の特性)を把握し、活用する。			
26		楽しみながらできることを取り入れる。（ICT機器の活用、音楽や動画を取り入れる）			
27		身体活動を取り入れる。			
28		作業活動を取り入れる。			
29		ゲーム的要素を取り入れる。			
30		本物や専門の用具を用意して、見たり、触れたりさせる。			
31		録画したNHK番組を活用する。			
32		授業の記録写真を活用する。			
33		視覚や聴覚に働きかける情報を提供する。			
34		言葉だけではなく、絵や図を挿入する。			
35		見通しや負担に配慮し、1枚学習プリントにする。			
36		書くことへの負担を軽減し、キーワードのみの穴埋め形式の学習プリントにする。			
37		パワーポイントと連動する学習プリントにする。			
38		学習プリントにコメント欄を設けて、励ましたり褒めたりする。			
39		i P a dを活用する。			
40		未学習部分（小学校時代の学習内容、他分野の学習内容）を補充する。			
41		家庭環境、前籍校や小学校時代の活動状況を踏まえた、安心感もてる題材を選ぶ。			
42		集団授業における個々の状態に応じた配慮をする。（抵抗感や苦手感をやわらげる）			
43		欠席児童生徒に対して学習プリントをファイル化して、教室のロッカーに置く。			
44		集団内でのスピード差に対応するための補助教材を準備しておく。			
48		（児童生徒の実態によっては）教科書で授業をすすめる。			
49	結論を先に伝える。				
50	授業の初めに、本時のねらい、学習内容、学習方法を伝え、確認する。				
55	発言内容を理解できるよう、情報機器とネットワーク環境を利用する。				

✓

の

配

慮

61	教師とのやりとりを楽しんだり、即興的に活動に没頭したりできるような場面を設定する。
67	心身の状態に合わせて、学習内容や学習方法を伝える。
68	「全体」から「部分」への流れを意識して伝える。
69	ヒントを出しすぎないようにする。
70	マンツーマン授業において、同僚の力も借りて、「大人の考え」という形に一般化して、複数の意見として紹介する。
71	練習問題のスマールステップ化を図る。
72	電卓を使用して、計算問題に取り組ませる。（手間を省く）
73	習熟度に合わせて、ルビをつけて提示する。
74	時間的な余裕をもたせての作業活動にする。（じっくりと考えさせる）
90	（音読が苦手な児童生徒には）教師が代読する。
91	漢字の使用を強要しないよう取り組む。
95	（記憶の保持が難しい児童生徒には）繰り返しポイントになる説明を複数回行うよう心掛ける。
96	ポイントとなる計算を、短いフレーズで印象付け、記憶の定着を図る。
97	Forms等を活用し、リモート授業を行うだけでなく、理解をさらに深めるための課題提出やフィードバックをする。
98	教師作成のオリジナルプリントに、教科書の該当ページを書き加える。
99	社会的事象に関する用語については、必要に応じて、平易な言葉に置き換えたり、たとえを用いたりして説明する。
100	社会的事象相互の比較や関連付けを図示したり、解説したりする。
101	児童生徒に応じた見やすい、書き込みやすいプリントを作成する。 （字体、フォント、行間、空欄、句読点で改行する、など）
102	書く時間、見る時間、聞く時間とに分けて、それぞれの時間を設ける。
103	短時間の集中を心掛ける。
104	授業の「終わり」がはっきりわかるようにする。
105	音楽の構造的な面白さを十分に味わえるような活動内容と提示の仕方を、より工夫していく。
106	教科のねらいに加えて日常生活におけるねらいを視野に入れて指導を行う。
107	表現することの楽しさを味わう時間を十分確保する
108	文章でまとめることや定着の難しい内容については、シンプルにして何度もゆっくり取り組む。
109	板書やプリントは視野や視力を考慮し、見えやすいものにする。
110	視力の使い過ぎによる疲れを回避する。
111	本物の教材を児童生徒に提供する。
75	実態（発達段階、心理特性、認知特性、理解度、学習進度など）やねらいに応じた学習形態で授業を行う。
76	教科担当と担任との情報共有を図る。
77	保護者、医療などの関係機関と連携し、時には同一のかかわりをする。
78	「授業の様子」を撮影記録して、前籍校（復学）や卒業後の進路先への引継ぎツールとして活用する。
79	各教科・領域等に関する専門性のある指導体制の構築のために、研修会を設けたり、授業で活用した教材等のデータベースを設けたりする。
80	最も安心できる、居場所になっている自分の教室を確保する。
81	音楽を聴く、歌うなど、活動に適した場所を確保する。
82	自分のペースで作業でき、作業できるスペースがとれる環境を準備する。
83	i P a dやW i e F i環境を整備する。
84	机の上に授業に関係ないものを置かないようにする。
85	車いす利用生徒はホワイトボードを見やすい位置へ移動させる。
86	室温計を使って、不快をもたらさないよう、環境設定をする。
87	一日の終わりに、施設点検、備品倉庫の整理、多目的ホールのフロア清掃を行う。 （●安全の確保、校内環境の整備、スムーズな授業展開、児童生徒の落ち着き）
113	Teams等の利用の際に、受信側に安定した音源を提供できるように「マイク」を活用する。
114	（病気療養中の児童生徒に対して）Teams等を利用して復学に向けて体調を整える機会とする。

①-2
教育方法

② 支援体制

③ 施設・設備

115	ICT機器（iPad、iPod、インターネット教材、アプリケーションソフト）を活用する。

合理的配慮表 身体面への配慮

困り感に 対しての 支援・配慮	通し 番号	「授業提案」の中に記載された、具体的な「合理的配慮」	合理的配慮 3観点11項目
身 体 面 へ の 配 慮	15	身体に負担がかっている動きを排除する。	①-1 教育内容
	27	身体活動を取り入れる。	①-2 教育方法
	28	作業活動を取り入れる。	
	36	書くことへの負担を軽減し、キーワードのみの穴埋め形式の学習プリントにする。	
	63	気になることの解決を最優先する。（気になることや心配なことをじっくりと聞く、トイレに行く、水分を摂取する、鼻をかむ、手を洗う、など）	
	64	心身の状態を観察しながら、無理はさせないようにする。	
	65	疲労度を確認する。	
	66	児童生徒の気持ちや身体の状態を把握する。	
	67	心身の状態に合わせて、学習内容や学習方法を伝える。	
	74	時間的な余裕をもたせての作業活動にする。	
	109	板書やプリントは視野や視力を考慮し、見えやすいものにする。	
	110	視力の使い過ぎによる疲れを回避する。	
	77	保護者、医療などの関係機関と連携し、時には同一のかかわりをする。	② 支援体制
	116	（病気療養中の児童生徒に対して）Teams等を利用して復学に向けて体調を整える機会とする。	
		③ 施設・設備	
85	車いす利用生徒はホワイトボードを見やすい位置へ移動させる。		
86	温湿計を使って、不快をもたらさないよう、環境設定をする。		
117	座席の位置を工夫し、見え方に対処する。		

合理的配慮表 学校生活面への配慮

困り感 に対しての 支援・配慮	通し 番号	「授業提案」の中に記載された、具体的な「合理的配慮」	合理的配慮 3観点11項目	
学 校 生 活 面 へ の 配 慮			①-1 教育内容	
		39	i P a dを活用する。	①-2 教育方法
		45	児童生徒の実態に合った登校時間を設定する。	
		46	登校後、好きな活動から取り組むこともできる柔軟な対応をとる。	
		62	一日に一度、多目的ホールでの活動を実施したり、促したりする。	
		63	気になることの解決を最優先する。(気になることや心配なことをじっくりと聞く、トイレに行く、水分を摂取する、鼻をかむ、手を洗う、など)	
		66	児童生徒の気持ちや身体の状態を把握する。	
				② 支援体制
		80	最も安心できる、居場所になっている自分の教室を確保する。	③ 施設・設備
		81	音楽を聴く、歌うなど、活動に適した場所を確保する。	
		82	自分のペースで作業でき、作業できるスペースがとれる環境を準備する。	
	83	i P a dやW i - F i 環境を整備する。		
	84	机の上に授業に関係ないものを置かないようにする。		
	85	車いす利用生徒はホワイトボードを見やすい位置へ移動させる。		
	86	温湿度計を使って、不快をもたらさないよう、環境設定をする。		
	87	一日の終わりに、施設点検、備品倉庫の整理、多目的ホールのフロア清掃を行う。 (●安全の確保、校内環境の整備、スムーズな授業展開、児童生徒の落ち着き)		

合理的配慮表 自己管理面への配慮

困り感に対する 支援・配慮	通し 番号	「授業提案」の中に記載された、具体的な「合理的配慮」	合理的配慮 3観点11項目
自己管理面への配慮			①-1 教育内容
	45	児童生徒の実態に合った登校時間を設定する。	①-2 教育方法
	46	登校後、好きな活動から取り組むことができる柔軟な対応をとる。	
	47	(朝食の欠食傾向による精神的な不安定さを避けるため) 調理学習は午後に設定する。	
			② 支援体制
			③ 施設・設備